

週間火山概況 (平成 21 年 4 月 3 日 ~ 平成 21 年 4 月 9 日)

【火山現象に関する警報及び予報の発表状況】

7日、浅間山に火口周辺警報を発表し噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引き下げた。

10日（期間外）、雌阿寒岳に噴火予報を発表し噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（平常）に引き下げた。

その他の火山は、噴火に関する予報警報事項に変更はない。

表1 火山現象に関する警報及び予報の発表履歴（4月3日～4月10日（期間外含む））

発表日時	火山名	警報・予報	概要
4月7日 13時00分	浅間山	火口周辺警報	噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）に引下げ
4月9日 16時05分	桜島	降灰予報	9日 15時31分の噴火に伴う降灰地域予想
4月10日 10時00分	雌阿寒岳	噴火予報	噴火警戒レベルを1（平常）に引下げ
毎日 07時、17時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表2 4月10日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	桜島
	レベル2（火口周辺規制）	浅間山、三宅島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福德岡ノ場
噴火予報	レベル1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（新燃岳）、霧島山（御鉢）
	平常	上記以外の活火山



図1 噴火警報発表中の火山（4月10日現在）

【噴火警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

雌阿寒岳めあかんだけ [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)] 10日(期間外)に噴火警戒レベル2(火口周辺規制)から引下げ

火山性地震の発生回数は一日あたり数回以下で推移し、低調な状態が続いている。火山性微動は観測されていない。

ポンマチネシリ火口の噴煙は火口縁上200m以下で大きな変化はなく低調に推移した。

7日陸上自衛隊第5旅団の協力により行った上空からの観測では、ポンマチネシリ96-1火口の状況に特段の変化はなかった。

GPSによる地殻変動観測では、2008年10月初め頃よりやや広域の地殻変動が認められるが、浅部の膨張は認められない。

雌阿寒岳の火山活動はおおむね落ち着いた状態となっており、ポンマチネシリ火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったことから、10日10時00分(期間外)に2(火口周辺規制)から1(平常)に引き下げた。

なお、火口内では引き続き噴気活動が続いており、火口内に影響する程度の噴出現象は突発的に発生する可能性があるため、火口内や近傍では火山ガスや火山灰噴出に対する警戒が必要である。

浅間山あさまやま [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)] 7日に噴火警戒レベル3(入山規制)から引下げ

火山性地震はやや多い状態が続いているが、2月2日の噴火前に見られた周期の短い地震の増加は認められていない。傾斜計による地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められていない。また、二酸化硫黄の放出量は依然多い状態が続いているものの、3月以降減少している。これらのことから、山頂火口から4kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったと判断し、7日13時00分に噴火警戒レベルを3(入山規制)から2(火口周辺規制)に引き下げた。

山頂火口からの噴煙量はやや多い状態が続き、噴煙高度は火口縁上200~500mで推移した。また、夜間には、高感度カメラ¹⁾で確認できる程度の微弱な火映が時々観測されるなど、熱活動の高まった状態が続いている。

火山性微動はやや多い状態が続いている。

3日及び8日に行った現地調査では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり800~2,900トン(前回3月30日、1,500~1,900トン)と多い状態が続いている。

GPSによる地殻変動観測では、2008年7月初め頃から深部へのマグマ貫入を示すわずかな伸びの傾向がみられている。

また、光波測距観測²⁾では、昨年8月頃からみられていた山頂部のごく浅いところの膨張によるものと推定される縮みの変化がやや鈍化している。

浅間山では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石³⁾に警戒が必要である。また、風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石³⁾に注意が必要である。なお、火山ガス放出量の多い状態が続いているので、風下側にあたる登山道等では火山ガスにも注意が必要である。

1) 国土交通省利根川水系砂防事務所の山麓設置カメラによる。

2) レーザなどを用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定する機器。山体の膨張や収縮による距離の変化を観測している。

3) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風の影響を受ける小さな噴石」のことである。

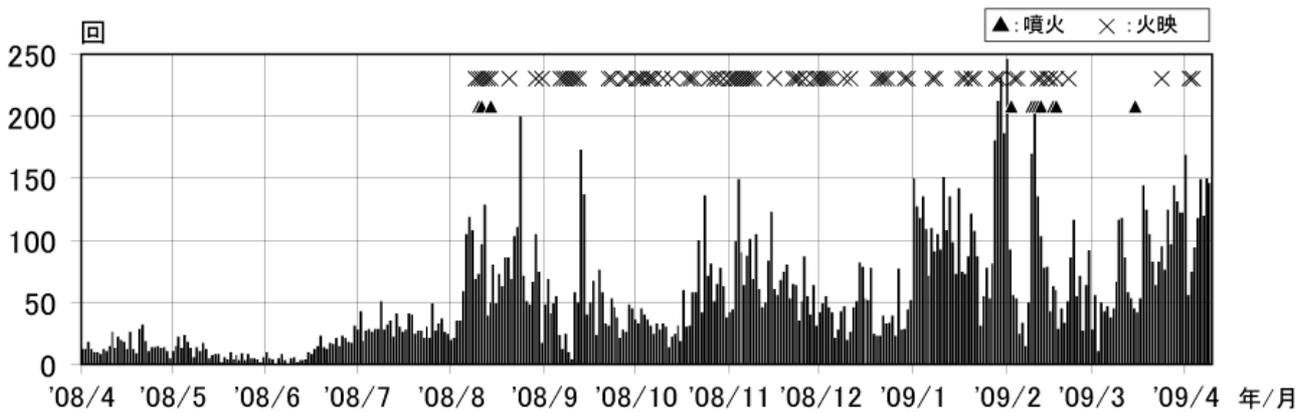


図2 浅間山 火山性地震の日別回数(2008年4月1日~2009年4月9日)

みやげじま

三宅島【火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)】

噴煙高度は火口縁上100~300mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。

8日に行った現地調査では、二酸化硫黄放出量は一日あたり2,100~3,200トン(前回3月16日、1,100~1,600トン)と依然として多い状態が続いている。

三宅島では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺(雄山環状線内側)では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には土石流にも注意が必要である。

いおうとう

硫黄島【火口周辺警報(火口周辺危険)】

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しているが、国土地理院の観測によると、2006年8月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動は継続している。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これまで小規模な噴火が発生した領域では噴火に対する警戒が必要である。

ふくとくあかのば

福德岡ノ場【噴火警報(周辺海域警戒)及び火山現象に関する海上警報】

今期間、観測は行われなかった。なお、これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測で、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

福德岡ノ場では引き続き小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

さくらじま

桜島【火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)】

昭和火口では、34回の爆発的噴火を含め、度々噴火が発生した。このうち9日15時31分に発生した爆発的噴火では、噴煙が火口縁上4000m以上に達し、火砕流が東側へ約1km流下した。また、弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾が4合目(昭和火口より800~1,300m)まで達した。

南岳山頂火口では、3日、7日及び8日に噴火が発生した。

火山性地震及び火山性微動はやや多い状態で経過した。

有村観測坑道(九州地方整備局大隅河川国道事務所)の伸縮計では、山体の膨張を示すわずかな変化が認められている。

国土地理院のGPS観測によると、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が続いているが、桜島直下にマグマが新たに移動したことを示す地殻変動は観測されていない。

桜島では、昭和火口及び南岳山頂火口から2kmを超えた居住地域近くまでの範囲では、噴火に伴う

大きな噴石³⁾及び火砕流に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石³⁾(火山れき⁴⁾)に注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

4) 桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

薩摩硫黄島さつまいおうじま【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上 50～700mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島では、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では噴火に対する警戒が必要である。

口永良部島くちのえらぶじま【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

島内に設置した遠望カメラにより、白色噴煙が時々観測され、高さは火口縁上 20～100mで推移した。火山性地震および火山性微動は少ない状態が続いている。

GPS による地殻変動観測では、2008 年 9 月以降続いていた新岳火口浅部のわずかな膨張を示す変化が 2009 年 2 月以降鈍化している。

口永良部島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があるため、火口から概ね 1 km の範囲では大きな噴石³⁾に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石³⁾にも注意が必要である。

諏訪之瀬島すわのせじま【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

御岳あたけ火口では、爆発的噴火が 27 回発生した。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では、御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では大きな噴石³⁾に警戒が必要である。

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）
レベル 5（避難）	噴火警報	居住地域嚴重警戒 または山麓嚴重警戒
レベル 4（避難準備）		
レベル 3（入山規制）	火口周辺警報	入山危険
レベル 2（火口周辺規制）		
レベル 1（平常）	噴火予報	平常

海底火山については、噴火警報（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表する。